

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 31日

事業所名 キッズサポートクラブあしたばプラス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		活動時間や自由時間を設けることで、1カ所に集中しないようにしている。	遊びのスペースわけが明確ではない。明確にし、児にわかりやすい環境設定を行う。
	2	職員の配置数は適切である	6		十分に配置できている。	職員の質をさらに上げ、よりよい支援を心掛けていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	手すりのみ有り	児童にわかりやすいように、今以上に物の置き場所などの可視化が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			机上活動や身体を動かす活動、学習などに応じたスペースをパーティションで仕切って分かりやすくしている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	年1回のアンケートを行っている。	保護者からの意見・意向を真摯に受け止め改善に繋げている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2		HPIにて公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	ブリーフィングを持ち情報共有などを実施している。	研修動画等を用いて、社内研修を行い職員の資質向上を図っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		関係機関と連絡を取り、情報を集めつつ作成にあたっている。	保護者からのニーズを聞き取り作成時に反映させている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2		児童それぞれに応じたアセスメントツールを使用するよう取り組んでいる。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		計画書の読み合わせを行っている。	各職員が計画書の内容を把握し、それに沿って相談し合い、支援を行う。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		話し合いを持ち、活動内容について各児童に合わせて取り組みを行っている。	同一見解であっても、各職員からの意見を細かく聞き取りを行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		内容を具体化し、児童が理解して活動できるよう工夫している。	内容の見直しを行い、同一にならないよう話し合いの場を設ける。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			児童のみではなく、職員も交えたうえでの集団活動も多く取り入れていき、児童と一緒に楽しむ。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		全員が集まる時間にブリーフィングを行っている。	話す内容を明確化し、より多くの情報を共有していかなければならない。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2	退勤時間が違うパートとはその日に行えない事がある。	パートとの情報共有の場を当日中に行うために、あらゆるツールを利用し改善していきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		記録は全職員が関わり毎日行っている。	時間を見つけて、無駄なく記録が出来るようにしていきたい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	1		中間・終期の評価を行い、時期の計画書策定に繋げている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			管理者・児発管に加え、必要に応じて児とのかかわりが深い職員も同席し取り組んでいる。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	2		関係機関と連絡を取り合い、支援の質の向上につなげていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		5	該当児童なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5	該当児童なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2	保護者から直接伺ったり連絡帳を通して、園での様子を把握するようにしている。	保護者のみならず、お迎え時等を利用し、園での様子なども詳しく聞き取りを行っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		今後さらに連携を取り合い、職員の資質向上を図っていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	2		近隣の児童らとの交流も行っていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2		現在コロナ禍でもあり、自粛しているが状況が落ち着いたなら再開していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		保護者お迎え時や、帰り送迎時に、気になる点の聞き取りを行い、支援課題として取り組んで行く。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2		児童のみならず、保護者に対しても支援方法の提案を今以上に行っていく。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			契約時に、責任者が説明を行っている。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		対面でご説明させていただき、確認・同意してもらっている。	保護者が理解しやすい様、専門用語はなるべく使わず説明が出来るようにしていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		具体的な助言に繋がらない場合もあるが保護者と寄り添い、解決に向けて支援している。	保護者の負担を軽減するため、相談があった際には職員間での情報共有を徹底していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2		コロナ禍で開催出来ていない。保護者会の開催を今後検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		お便りを月1回発行している。	利用頻度の少ない児童への、配布方法を考える必要がある。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		書類、データ等の持ち出しは禁止している。	退職時に確認を行う。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2		コロナ禍でもある為、行事等は事業所のみで行っている。時期を見て検討する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		対応方法を事業所内に掲示している。	分かりやすい位置に貼り、全職員に周知できるようにする必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1		年に2回程度発生を想定した避難訓練を実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1	対応方法を事業所内に掲示している。	常に最新の情報に更新できるように保護者への確認をしていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	対象児童いない	今後利用者にいる場合には、保護者への聞き取りを行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	作成はしているが、共有が不十分。	ブリーフィング時に併せて共有していく必要がある。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1		研修動画等を用い、理解の促しを行っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。